



DAMANHUR

ダマヌール日本ニュースレター

ぽぽろ



POPOLO

春号



《 第57 春号 》

発行 ダマヌール日本
発行日 2025年4月27日
<http://www.damanhur.jp>

ダマヌールの精神的プロジェクト ～ 橋の形の動物とのコンタクト ～



起源的な神に戻る

ダマヌールの哲学では、私たち人間は、この宇宙のすべてを創造した起源的な神に由来する存在です。実は、人間は皆一人ひとりが起源的な神であると言っても過言ではないのです。

人間は、その精神性が高かった時代には、「すべてはひとつ」という意識で調和的な世界を実現していました。

しかし、次第に、利己主義や物質偏重に陥り、精神性が薄れていき、他の命ある存在たちとの関係も不調和な状態で生きています。多くの人たちは、人間がこの不調和な生き方を変えなければ、この星の未来は暗いものになると感じています。

とりかえしがつかなくなる前に、今ここで、私たち人間は「個」という意識から、本来の、もともとそうであった「すべてはひとつ」という意識、すなわち究極の「1」である起源的な神へと戻ってい

かなければなりません。もともと神であったということを出し、かつての精神性の高かった偉大な人間を再び実現する必要があります。

そして、これこそが、人生の目的、人間が成長し進化する目的なのです。私たち人間が目指す究極のゴールは、もともとの起源的な神に戻るということです。

精神的ゲームのフィールド

これは、人生をかけて取り組む価値のある私たち人間の偉大なゲームであり、ダマヌールの数々ある精神的プロジェクトのなかでも最も重要なものです。なぜなら、宇宙の存続、人類の存続がかかった負けられない精神的ゲームだからです。

この精神的ゲームをするのに、物質の世界こそが、ゲームに挑むためのフィールドです。このゲームには制限時間があり、クリアできなければ、ゲームのフィールド自体が消滅する、というルールがあ

ります。今、私たちは、このゲームの真っ只中にいるのです。

実は、人間は、これまでも同様の精神的ゲームを何度も行ってきました。しかし、直近のゲームで勝利することができず、人間の精神的進化に必要ないくつかの能力を失ってしまいました。そのひとつは、内在する神を目覚めさせるために必要な感覚です。今、偉大な精神性を実現していた頃には有していた能力を再び取り戻し、内在する神を目覚めさせることが不可欠です。

起源的な神のカケラ

精神的ゲームを行うフィールドであるこの物質の世界は、起源的な神がある目的をもって自ら創造した世界です。世界には、人間をはじめとするさまざまな命のカタチが存在し、あらゆる命のカタチには、起源的な神のカケラが入っています。

例えるなら、宇宙創造の前には、一つの大きな鏡であった起源的な神が、創造の瞬間に割れ、バラバラになった鏡のカケラが、創造されたさまざまな命のカタチの一つひとつに入りました。このバラバラになったカケラを集めて、あたかもジグソーパズルのようにつながりをつけて、もともとの大きな鏡にすることができれば、再び、人間は起源的な神に到達することができます。

カケラは大小あり、実は、たくさんの生き物、動物のなかでも、人間は、より大きなカケラを宿す生き物なのです。人間には、五感のような外的感覚だけでなく、内面的感覚もあります。また、自由意志をもち、自ら、成長や進化に向けて考え、選択し、行動することができます。肉体をもってこの物質の世界に生まれ、さまざまな体験をして、その体験から、精神的な付加価値を生み出せるレベルまで進化した種が、より大きなカケラを有していると言えます。

そうした種には、物質の世界以外の広大な世界を認知し、意識をそこまで拡大できる可能性があります。このような種は、小さな神々を越えて、宇宙のすべてを創造した起源的な神、もともとの「1」という意識にまで橋をわたって到達できる可能性をもっています。このことから、ダマヌールでは、このような種を「橋のカタチ」と呼んでいます。

橋のカタチの動物

一方、動物の中にも、単に生存するための能力だけでなく、物質の世界での体験から付加価値を生み出し、物質以外のものを創造できるレベルの存在がいます。そういった種の動物たちもまた、大きなカケラを有する「橋のカタチ」です。

ダマヌールでは、カケラを集めてつながりをつけていくのに、まず、人間に近しいつながりやすい

存在たちとの絆を取り戻すことから始めました。人間と同じような精神的進化のレベルの存在たちです。それが「橋のカタチの動物たち」です。

ダマヌールの研究によると、橋のカタチと呼べる動物は、イルカ、クジラ、ゾウ、カメ、キリン、ゴリラ、オランウータンなどです。

もしかすると、こういった動物たちの方が、自己中心的で物質偏重主義に陥った人間よりも純粋で精神的レベルが高いともいえますし、彼らとならつながりをつけやすいと考えられ、橋のカタチの動物種たちと絆を結ぶことはとても大切です。



橋のカタチの動物とのコンタクト

私たちは古代の言語を使ってこれらの種とコミュニケーションをとることができます。例えば、手のジェスチャーで話しかけます。それは、私たちの言葉で表すと「私たちとの古代の絆を覚えていますか？私たちは新しい人類を代表するためにここにいます。すべての生き物との調和のとれた関係を望んでいます。もう一度、絆をむすびませんか？」というようなメッセージになります。実際に、この方法で、橋のカタチの動物たちとの対話を試み、成功したと思われる動物たちの反応がありました。

この橋のカタチの動物たちとのつながりをつけるアクションは、「橋のカタチの動物とのコンタクト」というプロジェクトとして、2016年から始まりました。最初は、海洋種であるクジラとのコンタクトでした。以来、イルカやウミガメ、アザラシ、ゴリラなど、多くの種に拡がり、最近では象とも美しいつながりを築きました。

活動地域も、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、南米と拡大されており、日本でも、2024年より、このプロジェクトが始まっています。

ダマヌールの精神的プロジェクトは、「橋のカタチの動物とのコンタクト」をはじめ、さまざまなアクションを通して、今この瞬間も行われています。あなたも、私たちの精神的プロジェクト、ゲームに参加して、一緒に人類の夢を実現しませんか？

日本でも「橋のかたちの動物とのコンタクト」が行われました。

その1

イルカとのコンタクト《能登島》



活動日：2024.8.1-2

場所：石川県能登島

種：ミナミハンドウイルカ

日本で初めてイルカとのコンタクトに成功！

能登島のある七尾湾はミナミハンドウイルカの最北の生息地とされ、2001年から2頭がすみ着き、現在は17頭が群れで生活しています。

しかし、2024年元旦の地震で遊覧船も多くが損傷し、観光客が乗り降りしていた和倉港は今も護岸が壊れたままで、イルカウォッチングやイルカと一緒に泳ぐスイムの予約は例年の2割に停滞、そんな中でのイルカとのコンタクトでした。

予想外にイルカは人懐こく、ジェスチャーでの呼びかけ、対話には大きな反応を示してくれ、私たちの船のすぐ近くまで何度も来てくれました。

また、シュノーケルをしている人のすぐ近くまで遊びに来てくれ楽しい時間を過ごすことができました。船が出航してもしばらく一緒についてきてくれ、名残惜しいお別れとなりました。

その2

クジラとのコンタクト《久米島》



活動日：2025.1.17-19

場所：沖縄県久米島

種：ザトウクジラ

《1日目》

天気がよく、波も穏やかでとても暑く感じるほど日差しが強い日でした。親子クジラ（お母さんと赤ちゃん）に会いコンタクトしました。赤ちゃんクジラは泳ぎの練習と息継ぎのため何度も海面に姿を見せてくれました。時々お母さんクジラとシンクロして潜ったり、泳いでいる姿がとても可愛らしく感動しました。

《2日目》

曇り空で、途中から雨が降る中クジラとコンタクトをしました。出港して直ぐにクジラを発見！親子クジラ（お母さんと赤ちゃん）とそれをエスコートする雄のクジラ3頭です。

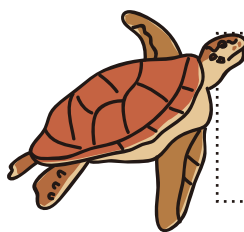
コンタクトのためのジェスチャーを続けていると、

横向きになりヒレを海面に出してバイバイしているような仕草をしてくれました。「君たちのサイン、届いているよー」と私たちのジェスチャーに応えてくれているようだ！と感じる場面もありました。

それ以外にも、尾ビレを縦にしてヒラヒラさせたり、ジャンプのような動きをするなど、かなりアクティブな動きを見せてくれました。船もかなり接近していたので、近くでクジラにコンタクトすることができました。

その3

カメとのコンタクト《宮古島》



活動日：2025.1.20

場所：沖縄県宮古島

種：アオウミガメ

海中でウミガメに聖なる言語で語りかけ、そしてジェスチャーで対話することに成功しました。

お天気もよく、ウェットスーツがあれば十分耐えられる水温、ベストコンディションでした。シュノーケリングで海に入り、水中でのコンタクトを試みました。

ウミガメが食事をしにくる浅瀬に海岸から入り、しばらく泳ぐと、すぐに食事のウミガメに遭遇。コンタクトを試みました。2匹のアオウミガメとコンタクトした後、少し沖にでていくと、泳いでいるアオウミガメに遭遇。ガイドさんによると、普通はすぐにスピードアップしていってしまうのに、ずっとゆっくりゆっくり泳いでくれて一緒に泳ぎながらコンタクトできました。

その後、泳いでいるタイマイに遭遇。一緒にしばらく泳ぎ、また違うタイマイに遭遇。かなり近寄ってきてくれて、私に対する警戒心は全く感じられませんでした。さらに、海底に2匹のウミガメ。

「通常、ウミガメは単独行動で、2匹、しかも異なる種類が近くにいることはほとんどない、とても珍しい光景ですよ」と言われ、コンタクトが成功していると感じました！メッセージを受け取ってくれていたと思います。気づけば1時間半位泳いでいました！

橋のかたちの動物とのコンタクト
はダマヌール日本のメンバーが
同行するツアーで行います。
詳しくは、オロメンまで。➡





ダマヌールの螺旋

シンクロニックラインに アクセスできる扉

ダマヌールには、地下70mに手作業で建設された「人類の神殿」があります。この神殿の上部、つまり屋外部分は「聖なる森」と呼ばれる森になっており、神殿の拡張部分にあたります。

この「聖なる森」には、いくつもの螺旋や迷路があります。螺旋や迷路は彩色された石を並べてつくられており、何キロにも渡って広がっています。

これらの螺旋や迷路は、地下の神殿の特定の部屋の機能と繋がっており、シンクロニックラインのエネルギーによって活性化されています。

シンクロニックラインとは、宇宙すべての星々をつないで流れるエネルギーの河であり、人類の神殿はシンクロニックラインの4本もが交差する非常に稀な場所に位置します。

そして、その特性から、シンクロニックラインにアクセスできる扉、つまりスターゲートの機能を有します。

螺旋に宿る生き物

ダマヌールの螺旋は、シンクロニックラインからのエネルギーで活性化されているだけでなく、「スピール」と呼ぶ、太陽に住むサトルな精神的な進化を遂げた生き物が宿っています。

ダマヌールの創立者であり、ダマヌールの精神的ガイドであったファルコが、少年期から行なっていた緻密で複雑な錬金術やマジックな科学などの研究の過程で、スピールを最初の螺旋に呼び寄せ、スピールがもたらす特別なエネルギーのフィールドを利用して、さまざまな感覚を洗練させていく過程が自伝の中で語られています。

螺旋を歩くと、螺旋の生き物スピールらのサポートにより、私たち人間が精神的進化をするために不可欠な内面的感覚の拡大や覚醒のサポートが得られます。

ですから、螺旋は、人間の精神的進化をサポートし、加速してくれるスーパーマシーンと言えます。

螺旋を歩くとは

私たちの体は、14層のエネルギーの体からなりたっており、それらは、宇宙を構成するさまざまな次元のエネルギーとつながっています。また、私たちには、地球のシンクロニックラインの分布が一人ひとりの肉体に投影された、マイクロラインの分布もあることがわかっています。ですから、螺旋を歩くことは、宇宙的なエネルギーとの交流であり、エネルギーがチャージされ、バランスをもたらします。そのことにより、直感やインスピレーションを得る体験も少なくありません。

それは螺旋によって、私たち人間が持っていないながらも眠らせたままの内面的感覚が刺激、調整されるからです。螺旋を歩くことは、精神的進化を加速するチャンスです。

多くの人が、このチャンスを使えるように、ダマヌールだけでなく、イタリア国内外で、螺旋が次々と造られています。日本でも体験できます。実際に歩いて体験してみませんか？

ダマヌールのセミナー「セルフ学」「スピリチュアル物理学」などでは、シンクロニックラインや螺旋について詳しく学ぶことができます。



三重県菰野町にあるダマヌール公認のコミュニティー「オロヴェリィ」は、イタリアのダマヌールと同様のエネルギーで調整されており、ダマヌールと同じ方法でつくられた“螺旋”があります。

螺旋の体験ができる「ダマヌールを知る会」を定期的に行っています。

今回は、6月1日(土)です。

義母の夢に寄り添うプラノテラピー

2024年9月のある夜、一人暮らしの98歳の義母が救急車で病院に運ばれた。右肩の亜脱臼だという。高齢で手術はできない。

要介護3の認定がでた。ヘルパーさんは毎日来る。本人は2倍に腫れた青あざの右手と肩を痛がり右手を三角巾で支え、全く使えない状況。それでも、フラフラしながら壁を伝わってトイレに行く。深夜、義母はまたも転倒して救急車で運ばれた。検査後に医師から「右肩と手以外、どこも異常はありません。健康なお年寄りです」と言われた。本人と家族は回復のために一人暮らしを選んだ。

1ヶ月経った頃から、毎週1回、定期的にプラノテラピーを始めた。義母は暖房をつけるのはリビングのみ。暖かいシャツとお手製のセーターなど5〜6枚着込み、さらに羽毛のコートを着ている。そして、もうすぐ右手が使えるようになると思いつている。家族は好きなようにやらせている。へこたれず、鬱にもならず、義母はできることが増えていく。毎日のお弁当に飽きたときは、「自分で作れる」と言い張る。やる気を尊重して、電子レンジを押すだけで食べられる冷凍ランチを揃えた。握手をすると強く握れず弱々しいが、プラノテラピーの回数が増えるにつれて、朝と夜のガスの元栓や雨戸の開け閉めもできるようになった。来客にお茶を入れ、時々フラフラと玄関まで見送る。折り紙で鶴を、広告の紙でゴミ入れを作った。庭の駐車場の屋根が壊れているので、修理をしたいと手配を息子に依頼した。指輪をはめるようになった。ハサミも使う。右手の腫れは少しずつ元に戻りつつある。プラノテラピーは20回が終わった。私は「プラノテラピーは凄いなあ」と思いながら、私まで、いつか、義母がミシンを使っている日を思い描いている。

(トロータ)

プラノテラピー ダマヌールのヒーリング

プラノテラピーはダマヌールの自然医学の中でも基礎となる安全でパワフルなヒーリングです。

プラーナと呼ばれる根源的な生命のエネルギーが、オーラ、肉体、魂の全てに良い影響を及ぼし、特に必要なところに集中して流れ、全体のバランスを取り戻します。

- 他のどんな治療法やセラピーとも併用可能。
- 健康の維持増進と病気の予防に。
- 癒しのプロセスを促進するために必要な出来事を引き寄せて、ポジティブな変化を生み出します。

ダマヌールのヒーリングと 一般のエネルギーヒーリングの違い

プラノテラピーのヒーラーは、エネルギーヒーリングを行うことによって、ヒーリングを行う場所やヒーラーに蓄積しがちな否定的なエネルギーを、セルフフィカ(ダマヌール独自のらせんに基づく科学)のテクノロジーを使って定期的に放出し、ニュートラルな状態に戻すことが義務づけられています。それにより、ヒーラーは常に安全でパワフルなヒーリングができます。

ヒーラーや治療に携わる方々に
プラノテラピーをお勧めします。

プラノテラピーは、コミュニティー
“オロヴェリイ”や各地で受けられます。
体験会も開催しています。

お問い合わせはこちらから



ファルコの金言

哲学者でヒーラー、ダマヌールの創立者である
ファルコの言葉を紹介します。

一刻も早く自分になり、この瞬間を完璧に生き尽くすんだ

人生とは一瞬の連続に過ぎない

あなたの変化は、現実的な日々の努力の先にある

癒しを求めて彷徨うことをやめ、今すぐ立ち上がれ

その瞬間から、あなたの癒しが始まるのだから

ファルコ・タラッサコ
(オベルト・アイラウディ 1950-2013)

セミナー体験記

◇「感情のコース」を受講して

このコースを受けるまで、私は結構自分は感情豊かな方かと思っていましたが、コースの途中から私が自分で自覚してる感情は主に怒りと喜びの感情だけで、多くの感情に蓋をして生きていたことに気がつきました。誘導瞑想で、自分が小さい時はしっかりと色々な感情を豊かに感じていたことに気がつき、コースを終了後は意識的に、自分の感情に気づいていくという練習をしています。

◇「夢の道」を受講して

私は、もともと夢はよく見るほうでしたが、セミナーを受けてから、前にも増してよく見るようになり驚いています。(C.A)

もっと夢をうまく使いたくて、購入したさまざまなスキーマ(エクササイズのための図形)を使っていますが、私にはものすごく効果があります。特に、或るスキーマをすると必ずカラフルな夢をみるので、おもしろいです。(50代女性)

◇「マスターの金言」を受講して

このセミナーを受けると、その時に自分が必要なメッセージがセミナー中に話されることが多々あり、びっくりします。

Falcoの残した言葉は、人生のいろんな時期のいろんな場面でその時々で響く部分が異なり、とても心の深い部分に触れる気がします。

◇「スピリチュアル物理学」を受講して

スピリチュアル物理学は、何度聞いても難しくてよくわからない部分が多いのですが、とっても面白いです。何度もセミナーに出ているうちに、わからない部分が少しずつわかってきたり、いろんな疑問が湧いてきたりして、目にみえる部分は4%で、残りの96%は目に見えないエネルギーの部分ということが普段は全く意識できませんが、すごいことだなと思います。

時間に関する話は、本当に奥が深く全然理解できない部分の方が多いのですが、とても興味深く何度聞いても面白いです。

Classic Self

ダマヌールクラシックセルフ

セルフイカは、古代文明で用いられてきた知識。ダマヌールの研究者たちによって復興され、さらなる進化を遂げました。感覚の拡大、技能の発達、健康などに良い影響をもたらします。

ラジオアクティビティ (放射能・電磁波) 防御のためのセルフ



ブレスレット。手首につけてお使いください。

このセルフは、1986年のチェルノブイリ原発事故の影響を受けて作られました。

北イタリアのアルプスの麓にあるダマヌールにもチェルノブイリから偏西風に乘ってアルプスを越えて放射性物質が飛来したのです。

そのため、ダマヌールでは、何ヶ月もの間、放射

能の影響のない保存食を食べたり、このセルフを身につけて防御していました。

福島原発事故後の影響もですが、最近、特に懸念されているのが電磁波の影響です。携帯電話は、すでに生活になくてはならないものになっており、いつのまにか5Gの基地局があちこちに設置されています。携帯電話だけでなく、電化製品をはじめ、電気自動車、送電線など身近な環境の中には電磁波があふれています。

電磁波によるDNAや遺伝子の損傷、脳や神経、免疫システムへの悪影響、心臓への負担など健康リスクが懸念されているのは皆さんも知るところだと思います。

日常的に受ける電磁波からの影響を少しでも軽減するために、このラジオアクティビティ防御のセルフをお勧めします。このセルフは放射能や静電気、電磁波の影響からあなたを保護します。ストレスが生じた際に、緊張を和らげることににも有用とされています。是非、お試しください。

＊ ラジオアクティビティ防御のセルフ ￥9,500

お問合せ・購入はこちらへ

ダマヌール日本 self@damanhur.jp

セミナー・イベントスケジュール 2025年5月以降

2日間セミナー

5月【スピリチュアル物理学《特別編》～魂の構造とパーソナリティー】

開催日：5月17日(土)18日(日)

6月【ダマヌールのマンティカ(占い) ～シンクロニックブックと7つの石～】

開催日：6月28日(土)29日(日)

8月【スピリチュアル物理学 1レベル】

開催日：8月23日(土)24日(日)

9月【アストラトラベル】

開催日：9月13日(土)14日(日)

開催時間：1日目 11:00～18:30
2日目 10:00～18:00

会場：オロヴェリィセミナールーム

講師：フェニーチェ・フェルチェ

参加費：40,000円

7月 ワンデイセミナー

【アトランティス～古代エジプト～ ダマヌール そしてオロヴェリィへ】

偉大な人類の黄金時代を実現する夢に向かって 着実に生きる秘訣

講師：フェニーチェ・フェルチェ

通訳：ジュゴン・クスノキ

開催日：7月19日(土) *途中昼休憩あり

時間：午前の部 10:30～12:30
午後の部 14:00～16:30

場所：ウインクあいち 小ホール

☒「名古屋駅」より徒歩5分

参加費：10,000円

早割(5月末日まで)9,000円

学割 8,000円

フェニーチェのグループヒーリング

グループで受けるプラノセラピーです。
個人で受ける以上にパワフル！

7月19日(土) 講演会終了後、同会場にて
要予約。料金別途(¥6,000)

2025.7.19
ワンデイセミナー専用サイト
チケット購入もできます。

右QRコードからどうぞ！ ➡



11月 過去生のリサーチ

開催日：11月22日(土)23日(日)

時間：22日10:00～21:00
23日10:00～18:00

会場：オロヴェリィセミナールーム

参加費：75,000円(ダマヌールでの事前調査費を含む)

★ダマヌールでの事前調査のために必要なもの

出生地・生年月日・出生時刻

写真2枚(最近のものと10～15年くらい前のもの)

申込受付一次締切 7月31日

ダマヌールを知る会 in Orovelj

開催日：6月1日(日) 10:00～15:00

場所：オロヴェリィ(三重県菰野町)

参加費：2,000円 *要予約

プログラム

- ・螺旋を歩く体験
- ・セルフフィックペインティング鑑賞体験
- ・インナーハーモニゼーション体験
- ・ヒーリング体験(料金別途)

オロヴェリィは、ダマヌール公認のコミュニティーで
三重県菰野町にあります。

知る会では、螺旋やセルフフィックペインティングなど
ダマヌールを体験し、感じていただけます。
ダマヌールのヒーリングの筆頭
であるプラノセラピーも体験できます。

お問合せ・お申込みはこちらから ➡



ホームページ



フェイスブック



YouTube



インスタグラム



メールマガジン毎週配信中！ お申込みはHPから

マスク制作 壁画制作

コミュニティの入り口が大変にぎやかになりました。去年の夏場にマスク制作を行い、冬場には壁画制作を行いました。今、こちらに足を運んでいただくとダマヌールの芸術があなたを迎えてくれます。

こちらはマスクの制作過程の様子です。マスクの土台となる鉄筋を組んでいるところです。溶接をし、セメントで形をつくっていききました。



壁画の制作過程です。
足場の悪い中、でこぼこの壁面に描きました。



完成したマスクと壁画です。
是非、こちらを見に足を運んでください。

コミュニティ 冬から春へ

コミュニティは、夏場は暑く、冬場は寒く雪が降ることもあります。冬は閉ざされた世界になることもあり、大変な一面もありますが、その分春の装いは格別です。そんな季節の変化をご覧ください。

